

編 修 趣 意 書

(教育基本法との対照表)

| | | | | |
|----------------|----------------|----------|-------|----|
| ※受理番号 | 学校 | 教科 | 種 目 | 学年 |
| 104-25 | 高等学校 | 商業科 | 財務会計Ⅱ | |
| ※発行者の 番号・略称 | ※教科書の 記号・番号 | ※教 科 書 名 | | |
| 234TAC | 商業745 | 財務会計Ⅱ | | |

1. 編修の基本方針

- (1) 幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養うという観点から、基礎から応用へと段階的に学習を進めることができるように編や章を設定・配置した。また、各章冒頭にその章で学習する内容をカラーイラストと短文で記載し、より深い理解を得られるようにした。(第1号)
- また、そのイラストにおいては、男女の平等、自他の敬愛と協力を重んずるという観点から、男女の社員が協力し合いながら業務を進めている様子を示した。(第3号)
- (2) 職業及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度を養うという観点から、より実務に配慮した取引例を通じて学習が進められるような例題を設定するとともに、幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養うという観点から、取引内容についてより深い理解が得られるよう、解説部分にカラーイラストや図解を取り入れるとともに、仕訳の下には仕訳作成の思考プロセスを示すことにより、考え、理解しながら仕訳を学習できるようにした。(第1号、第2号)
- (3) 他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うという観点から、基本的な用語について英語表記を行っている。(第5号)
- (4) 自主及び自律の精神を養うという観点から、例題を中心に、章末の取引まとめ、ミニテストまでの内容をつなげ、主体的に学習が進められるよう配慮した。(第2号)

2. 対照表

| 図書の構成・内容 | 特に意を用いた点や特色 | 該当箇所 |
|--------------------|--|--------------------------|
| 口絵 | 幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養うという観点から、「わが国の会計制度」について図解で示すとともに、財務分析の公式、勘定科目一覧表を示した。(第1号) | 口絵1、4、5～6ページ |
| | 職業及び生活との関連を重視するという観点から、「連結会計とは」を示した。(第2号) | 口絵2ページ |
| 学習のまえに | 公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うという観点から、世界経済の現状と、未来のために貢献する必要性、本書の学習を通じて、その一員として活躍することに対する期待について記述した。(第3号) | ま え づ け 《2》ページ |
| | 自主及び自律の精神を養うという観点から、本書の構成を示すことで、主体的な学習ができるよう、配慮した。(第2号) | ま え づ け 《2》《3》 ページ |
| 第1編 財務会計の基本概念と会計基準 | 幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養うという観点から、財務諸表 | 2～7ページ |

| | | |
|--|--|--|
| 第1章 財務諸表の作成と表示の考え方 | の作成と表示の考え方について記述した。(第1号) | |
| 第2章 資産負債アプローチと収益費用アプローチ | 幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養うという観点から、資産負債アプローチと収益費用アプローチにつき、各アプローチにおける財務諸表の位置づけや、純利益と包括利益など、多角的に解説した。(第1号) | 9～13ページ |
| 第3章 会計基準の国際的統合 | 伝統と文化を尊重するという観点から、企業会計基準設定上の流れについて紹介するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うという観点から、国際会計基準の設定について解説した。(第5号) | 15～17ページ |
| | 自主及び自律の精神を養うという観点から、各章末に学習内容と連動したミニテストを掲載し、主体的に学習を進めやすいよう配慮している。(第2号) | 8、14、18ページ |
| 第2編 金融商品 第4章 金融商品 第5章 外貨建取引 第6章 デリバティブ取引 | 幅広い知識と教養を身に付けるという観点から、取引の記帳についての基礎的な内容を記述した。あわせて、数字の流れや帳簿の記入方法について理解を深めるため、図解で示した。(第1号) | 20～228ページ |
| 第3編 収益と費用 第7章 様々な商品売買取引 第8章 工事契約 | 幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養うという観点と、自主及び自律の精神を養うという観点から、仕訳の下に逐一仕訳の思考回路を示し、学習者の理解を深めるとともに、自主的な学習を進めやすいように配慮した。(第1号、第2号) | 20～228ページ |
| 第4編 有形固定資産と無形固定資産 第9章 有形固定資産 第10章 リース取引 第11章 研究開発費とソフトウェア | 職業及び生活との関連を重視するという観点から、実務に即した、例題を作成した(第2号) | 20～228ページ |
| 第12章 固定資産の減損 | 職業及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度を養うという観点から、退職給付会計において、従業員が職務を全うして退職するまでの流れについて記述した。(第2号) | 156～169ページ |
| 第5編 固定負債 第13章 社債 第14章 退職給付会計 第15章 資産除去債務 | 生命を尊び、自然を大切にし、環境の保全に寄与する態度を養うという観点から、資産除去債務について記述し、有形固定資産については除去の時点までも企業は責任を持つ必要があることについて触れた。(第4号) | 175ページ |
| 第6編 純資産 第16章 純資産の分類 第17章 新株予約権 第18章 ストック・オプション | 職業及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度を養うという観点から、法人税等と税効果会計について記述した。(第2号) | 214～224ページ |
| 第19章 分配可能額 | 自主及び自律の精神を養うという観点から、各章末に学習のまとめと、例題と連動したミニテストを掲載し、主体的に学習を進めやすいよう配慮している。(第2号) | 34～35、49～50、63～64、78～79、92～94、105、121～122、131、 |
| 第7編 税効果会計 第20章 税効果会計 | | |

| | | |
|-------------------|---|---|
| | | 141 ~ 142、 154 ~ 155、 173 ~ 174、 180、191、 197、204、 212、227 ~ 228ページ |
| 第8編 キャッシュ・フロー計算書 | 職業及び生活との関連を重視しという観点から、キャッシュ・フロー計算書の必要性について記述した。(第2号) | 230 ~ 231ページ |
| 第21章 キャッシュ・フロー計算書 | 幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養うという観点から、キャッシュ・フロー計算書の表示区分や表示方法、作成方法などについて、図解を交えながら記述した。(第1号) | 232 ~ 242ページ |
| | 自主及び自律の精神を養うという観点から、各章末に学習のまとめと、例題と連動したミニテストを掲載し、主体的に学習を進めやすいよう配慮している。(第2号) | 243 ~ 244ページ |
| 第9編 企業集団の会計 | 幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養うという観点と、職業及び生活との関連を重視するという観点から、企業結合と、持分法も含む連結財務諸表の作成について、掲載した。その際、それぞれの仕組みのイラストや、補足説明を側注の吹き出しに掲載し、学習者のスムーズな理解につながるよう、心がけた。(第1号、第2号) | 246 ~ 328ページ |
| 第22章 企業結合会計 | | |
| 第23章 連結財務諸表(その1) | | |
| 第24章 連結財務諸表(その2) | | |
| 第25章 連結財務諸表(その3) | | |
| 第26章 持分法 | | |
| | 職業及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度を養うという観点から、実務上の重要性にかんがみ、連結税効果会計について記述した。(第2号) | 300 ~ 304ページ |
| | 自主及び自律の精神を養うという観点から、章末に学習のまとめと、例題と連動したミニテストを掲載し、主体的に学習を進めやすいよう配慮している。(第2号) | 255、280 ~ 282、297 ~ 299、318 ~ 321、328ページ |
| 第10編 財務諸表分析 | 職業及び生活との関連を重視するという観点から、有価証券報告書の意義と内容について記述した(第2号) | 330 ~ 331ページ |
| 第27章 財務諸表分析 | | |
| | 幅広い知識と教養を身に付けるという観点から、財務諸表分析について記述した。あわせて、財務分析指標についての理解を深めるため、公式としてまとめるとともに、適宜、図解もあわせて表示した。(第1号) | 330 ~ 343ページ |
| | 自主及び自律の精神を養うという観点から、各章末に学習のまとめと、例題と連動したミニテストを掲載し、主体的に学習を進めやすいよう配慮している。(第2号) | 344ページ |
| 第11編 監査と職業監査人 | 幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養うという観点から、監査制度の意義と必要性について記述した。(第1号) | 346 ~ 348ページ |
| 第28章 監査と職業監査人 | | |

| | | |
|--|---|------------|
| | 職業及び生活との関連を重視するという観点から、監査制度の仕組みと流れについて記述した（第2号） | 348～352ページ |
| | 正義と責任を重んずるとともに、公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うという観点から、監査の品質管理と、公認会計士・税理士の責務について記述した（第3号） | 352～353ページ |
| | 自主及び自律の精神を養うという観点から、各章末に学習のまとめと、例題と連動したミニテストを掲載し、主体的に学習を進めやすいよう配慮している。（第2号） | 354ページ |
| 付録 | 幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養うという観点から、本文中で学習した法令、会計基準につき、掲載した。（第1号） | 355～373ページ |
| 3. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色 | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養うという観点から、補足事項を側注の吹き出しに掲載し、多角的に理解できるようにした。 ・伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんだ我が国と郷土を愛する態度を養うという観点から、各編の色づかいにつき、日本の伝統色に配慮して選択するとともに、日常の取引はオレンジ系、決算は黄緑系と、学習内容に応じた色選択をした。 ・生命を尊び、自然を大切にし、環境の保全に寄与する態度を養うという観点から選択した印刷用紙と植物油インキを使用し、環境に配慮した。 | | |

- (備考)
- 1 ※受理番号欄には、申請図書番号を記入する。
 - 2 その他の※欄は検定申請時には記入せず、検定合格後に提出する際に記入する。
 - 3 「編修の基本方針」欄には、教育基本法第2条に示す教育の目標を達成するために編修の基本方針とした点を記入する。
 - 4 「対照表」欄には、図書の構成・内容と教育基本法第2条各号に示す教育の目標との対照について記入する。詳細は次のとおりとする。
 - ① 「特に意を用いた点や特色」欄には、教育基本法第2条各号に示す教育の目標を達成するために、図書の構成や内容において編修上特に意を用いた点や特色について記入する。その際、教育基本法第2条各号のうち、特に関連が深いものを文末に示す。（例：第〇号）
 - ② 「該当箇所」欄には、上記内容に対応する具体的な箇所が分かるように、主な該当箇所のページ（例：〇ページ）を記入する。
 - ③ 必要に応じ、例で示している様式を参考にして、「対照表」欄を適宜工夫して作成しても差し支えない。
 - 5 「上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色」欄には、上記の記載事項以外に、教育基本法第5条に示す義務教育の目的や学校教育法第21条に示す義務教育の目標、学校教育法第51条に示す高等学校教育の目標などを達成するため、編修上特に意を用いた点や特色などがあれば記入する。
 - 6 「編修の基本方針」欄以下の外枠線は、記入しなくても差し支えない。
 - 7 別紙様式第5-1号の分量は5ページ以内とする。

編 修 趣 意 書

(学習指導要領との対照表、配当授業時数表)

| | | | | |
|----------------|----------------|----------|-------|----|
| ※受理番号 | 学校 | 教科 | 種 目 | 学年 |
| 104-25 | 高等学校 | 商業科 | 財務会計Ⅱ | |
| ※発行者の 番号・略称 | ※教科書の 記号・番号 | ※教 科 書 名 | | |
| 234TAC | 商業745 | 財務会計Ⅱ | | |

1. 編修上特に意を用いた点や特色

実社会における企業で何が行われているかを把握し、日常の取引の記録から財務諸表の作成までを理解し、適切な会計情報の提供と効果的な活用に関する能力を養うという観点から、以下のような工夫を施して編修している。

○第1編では「財務会計の基本概念と会計基準」を学習し、第2編～第7編において、金融商品、収益と費用、固定資産、固定負債、純資産、税効果会計までの各論点を学習し、第8編でキャッシュ・フロー計算書、第9編では企業結合と連結会計を、第10編では財務諸表分析、第11編では監査について掲載した。

なお、学習内容に応じた章カラーを用い、学習の際、今どういった内容を学んでいるのかが視覚的にわかるようにしている。またこのカラーは、『簿記』『財務会計1』から引き続き利用することで、スムーズに学習を進められるようにしている。

○各章の冒頭では、これから何を学習するのかという導入部分につき、2コマイラストと文章で解説を加えた。その際、すでに学習した内容との関わりもあわせて解説することで、その都度知識の整理がはかれるようにした。

○「取引の記帳」を学習する際、取引状況のイラストを随所にいれることで、学習者にその状況がイメージしやすいようにした。

○仕訳の解説にあたっては、仕訳作成の思考プロセスを入れることにより、丸暗記にならない学習が進められるようにした。あわせて勘定も掲載することで、仕訳からの転記の学習がスムーズに進むようにした。

○帳簿や財務諸表類を解説する際には、図解化するとともに、金額の流れについて矢印などで、学習者が容易に理解できるようにした。

○間違いやすい箇所や重要なポイントについては、側注の吹き出しや囲み記事により、別角度からの解説を加えた。また、書籍内であわせて読むと理解が深まる箇所については、当該箇所を明示することで学習に役立てられるようにした。

○例題を中心に、章末の取引まとめ、ミニテストまでの内容をつなげ、これらを利用して反復的に学習することで、学習内容の定着が図れるようにした。

○冒頭の見返しや口絵には、現在の会計制度の図解や、連結グループの解説図解を掲載し、会計制度をめぐる実際についてイメージしやすいようにしている。

2. 対照表

| 図書の構成・内容 | 学習指導要領の内容 | 該当箇所 | 配当 時数 |
|--|--|------|----------|
| 第1編 財務会計の基本概念と会計基準 第1章 財務諸表の作成と表示の考え方 | (1) 財務会計の基本概 念と会計基準 ア 財務諸表の作成 と表示の考え方 | ページ | 2 |
| 第2章 資産負債アプローチと収益費用ア プローチ | イ 資産負債アプロ | | 1 |

| | | | |
|---------------------------------------|---|-----|---|
| 第3章 会計基準の国際的統合 | 一チと収益費用アプローチ ウ 会計基準の国際的統合 | | 1 |
| 第2編 金融商品 第4章 金融商品 | (2) 会計処理 ア 金融商品 | ページ | 4 |
| 第5章 外貨建取引 | | | 4 |
| 第6章 デリバティブ取引 | | | 2 |
| 第3編 収益と費用 第7章 様々な商品売買取引 | (2) 会計処理 イ 収益と費用 | | 5 |
| 第8章 工事契約 | | | 5 |
| 第4編 有形固定資産と無形固定資産 第9章 有形固定資産 | (2) 会計処理 ウ 有形固定資産と無形固定資産 | | 3 |
| 第10章 リース取引 | | | 5 |
| 第11章 研究開発費とソフトウェア | | | 3 |
| 第12章 固定資産の減損 | | | 5 |
| 第5編 固定負債 第13章 社債 | (2) 会計処理 エ 固定負債 | | 5 |
| 第14章 退職給付会計 | | | 5 |
| 第15章 資産除去債務 | | | 2 |
| 第6編 純資産 第16章 純資産の分類 | (2) 会計処理 オ 純資産 | | 2 |
| 第17章 新株予約権 | | | 3 |
| 第18章 ストック・オプション | | | 3 |
| 第19章 分配可能額 | | | 3 |
| 第7編 税効果会計 第20章 税効果会計 | (2) 会計処理 カ 税効果会計 | | 4 |
| 第8編 キャッシュ・フロー計算書 第21章 キャッシュ・フロー計算書 | (3) キャッシュ・フローに関する財務諸表 ア 資金繰りの重要性 イ キャッシュ・フローに関する財務諸表の作成 | | 8 |
| 第9編 企業集団の会計 第22章 企業結合会計 | (4) 企業集団の会計 ア 企業結合の形態 イ 合併後の財務諸 | | 3 |

| | | | |
|--------------------------------|---|--|-----|
| 第23章 連結財務諸表（その1） | 表の作成 ウ 連結財務諸表の作成 | | 5 |
| 第24章 連結財務諸表（その2） | エ 連結税効果会計 | | 5 |
| 第25章 連結財務諸表（その3） | | | 5 |
| 第26章 持分法 | | | 2 |
| 第10編 財務諸表分析 第27章 財務諸表分析 | (5) 財務諸表分析 ア 企業価値の評価 イ 連結財務諸表分析 ウ 株主関連指標 | | 5 |
| 第11編 監査と職業監査人 第28章 監査と職業監査人 | (6) 監査と職業会計人 ア 会計責任と監査の概要 イ 職業会計人の職務 | | 5 |
| | 合計 | | 105 |

- (備考) 1 ※受理番号欄には、申請図書番号を記入する。
- 2 その他の※欄は検定申請時には記入せず、検定決定後に提出する際に記入する。
- 3 「編修上特に意を用いた点や特色」欄には、学習指導要領の総則や当該教科の目標を達成するため、編修上特に意を用いた点や特色を記入する。
- 4 「対照表」欄には、図書の構成・内容と学習指導要領に示す「内容」の各事項との対照について、「内容の取扱い」も踏まえて記入する。その際、「該当箇所」欄に、申請図書の該当箇所のページ（例：〇～〇ページ）を記入する。また、必要に応じ、例で示している様式を参考にして、「対照表」欄を適宜工夫して作成しても差し支えない。
- 5 「配当時数」欄には、申請図書で予定している配当授業時数を示すこと。なお、配当授業時数の記載が必要ない教科、科目については空欄でよい。
- 6 「編修上特に意を用いた点や特色」欄以下の外枠線は、記入しなくても差し支えない。
- 7 別紙様式第5-2号の分量は5ページ以内とする。